

事業所名

ごーういず

支援プログラム

作成日

2025年

2月

21日

法人（事業所）理念		「共に生きる」「共に学び」「共に遊ぶ」					
支援方針		・「できた！」を増やして自信を育てる…武道の習得を通じて、成功体験を積み重ね自己肯定感を高める。・身体を動かしながら心を整える…体幹運動や型の練習で、感覚・情緒の安定と集中力の向上を図る。・他者との関わりから社会性を育てる…活動を通して、ルール理解・協調性・感謝の気持ちを養う。・学んだことを日常生活に活かす…姿勢・挨拶・集中など、活動で身につけた力を家庭や学校でも活かせるよう支援する。					
営業時間		9時	00分	18時	00分	送迎実施の有無	あり
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	活動の前後に必ず行う「挨拶」や「身だしなみの確認」等を基本的な生活習慣の確率を支援の出発点とする。道具の出し入れ、身支度、靴の脱ぎ履きといった一連の流れを習慣化する事で、生活動作の自立を促す。場に応じた態度の切り替え（ON/OFFの認識）を育む。					
	運動・感覚	跳ぶ・回る・這う・くぐる・転がる・登るなど、全身を使った武道の基礎運動や体幹トレーニングにより、粗大運動の発達だけでなく、前庭感覚や固有受容感覚の調整が図られる。これは、感覚統合の向上を目的とし、姿勢の安定・運動計画能力・身体イメージ（ボディスキーマ）の形成にも寄与する。武道特有の「構え」や「型」を通じ、身体の左右差や軸感覚を統合的に育成する。					
	認知・行動	空手における「形（かた）」は、順序性・空間認知・記憶力を同時に要求される複合的な課題であり、認知機能の発達に効果的である。また、約束組手を通じて「ルールを守る」「待つ」「順番を守る」「エラー時のリカバリー」など、実生活に直結する行動調整能力や自己統制を育む。失敗経験から学ぶ機会や、成功体験による自信の醸成も認知発達に好影響を与える。					
	言語コミュニケーション	支援者の号令に対する「ハイ！」の返答、仲間との掛け声（「せーの」「いち・に！」）は、受容・表出の基本的な言語活動であり、自然な形での言語使用機会を増加させる。また、非言語的なコミュニケーション（アイコンタクト、ジェスチャー、身体の向き）を含む全体的な伝達能力を育てる。さらに「言葉を使って行動を調整する」経験が、言語の機能的理解を深める。					
	人間関係社会性	ペア活動、集団稽古などを通じて、「相手を意識する」「自分と他者の違いを理解する」「力加減を調整する」「感謝を言葉や態度で表す」など、実社会で求められる対人スキルの基礎を育てる。勝敗や順番を受け入れる経験を重ねることで、自己肯定感の涵養や、悔しさ・達成感を他者と共有する能力も身につける。武道の理念である「己に克ち、他を敬う」心を育むプロセスが含まれている。					
家族支援		保護者が児童の発達や障害を理解し、その成長に応じたニーズの変化を受け入れ、肯定的に支えられるように、日頃から信頼関係を構築し、丁寧な支援を行う。		移行支援		地域社会への参加を通じて、同年代の子どもを含む地域の仲間づくりができるよう、地域イベントや学校の課外活動への積極的な参加を促進する。	
地域支援・地域連携		児童が通う学校や放課後等デイサービスなどとの情報連携や調整、支援方法や環境の調整に関する相談援助、および担当者会議の開催を実施する。		職員の質の向上		定期的な職員会議・勉強会の開催。強度行動障害者支援者講習等の受講。	
主な行事等		季節に合わせた行事…初詣・節分・ひなまつり・お花見会・端午の節句・和菓子の日祭り・七夕会・夏祭り・十五夜・ハロウィンパーティー・文化祭・クリスマス会・忘年会。 定期的に「武道大会」を行い学んだことを皆の前で発表する。本人の努力・生活態度を評価し昇級試験を行う。					